



上：背表紙はリネンの布テープ。丈夫でいい風合いです。
下：生成色のコミック紙を束ねた、手触りが優しいA5サイズの無地ノートです。6ページで1階段にしています。



45416-01
階段ノート
¥756
14.8×21cm / 60ページ / 日本製



上：階段は10段なので、あかさたな...で分けるとびったり。アドレス帳や和英の単語練習帳などにも使えそうです。
下：期間や日時が限られたパーティーやイベントでの芳名帳としても、日時別に少量ページずつ使い続けていくと、わかりやすい記録に。

開くとそこに、
小さなだんだん。

紙でできた階段のノート

何年前か、旅先のドイツで古ぼけた1冊のノートを手にしました。もう既に、誰かが使っていた小さなノート。日に灼けて、うすっぺらくて、表紙のラベルが妙にでかい。へんなバランスのノート：と首をかしげたものの、気になって表紙をめくったら、たちまちそのノートを気に入ってしまいました。あらわれたのは、紙でできた小さな階段！使っていた人がノートの端を内側に切り込んで、すこしずつ段差をつけ、切り残した部分にタイトルを書き入れて、普通のノートを自前の項目別レシビブックに変身させていたのです。知らない誰かのその工夫に、思わず微笑んでしまいました。

タイトルシールかなにかで、簡単に項目を分けることもできただろうに、わざわざ面倒な手間をかけて、自分の気に入る仕様に変えてしまう頑固さ。なのに、勢いどんどん切り込んでいってしまったのか、下の方になると段差の幅が狭くなってぎゅうぎゅうになっていたり、字が書ききれなくなっ

て途中で読めなくなっていたりして、几帳面なんだか適当なんだかわからない。でも、なんだかそこに使っていた人のキャラクターまでもが滲んでいて、面白い。ついでに、表紙に貼られた妙にでかいラベルも「そのひと」の作業だと気づきました。フリーハンドで切ったらしい、ラフな紙がベタッと貼られているのは、元々印刷されていた表紙が気に入らなかつたのかなあ：なんて、どんな想像が膨らみます。結局、使えもしないその古ノートを、いそいそ買って帰国したのでした。

今も時折眺めては、やっぱりなんだかいいな〜と思ってしまう。だから、この「階段ノート」は会ったこともない、「そのひと」の心意気と工夫にならって作ったノートです。ただし、ガタガタのテキト〜階段でなく、きれいな正方形がならぶ階段に。そしてラベルは丈夫な栗色の表紙に「まっすぐ貼られている」のでどうかご心配なく。